

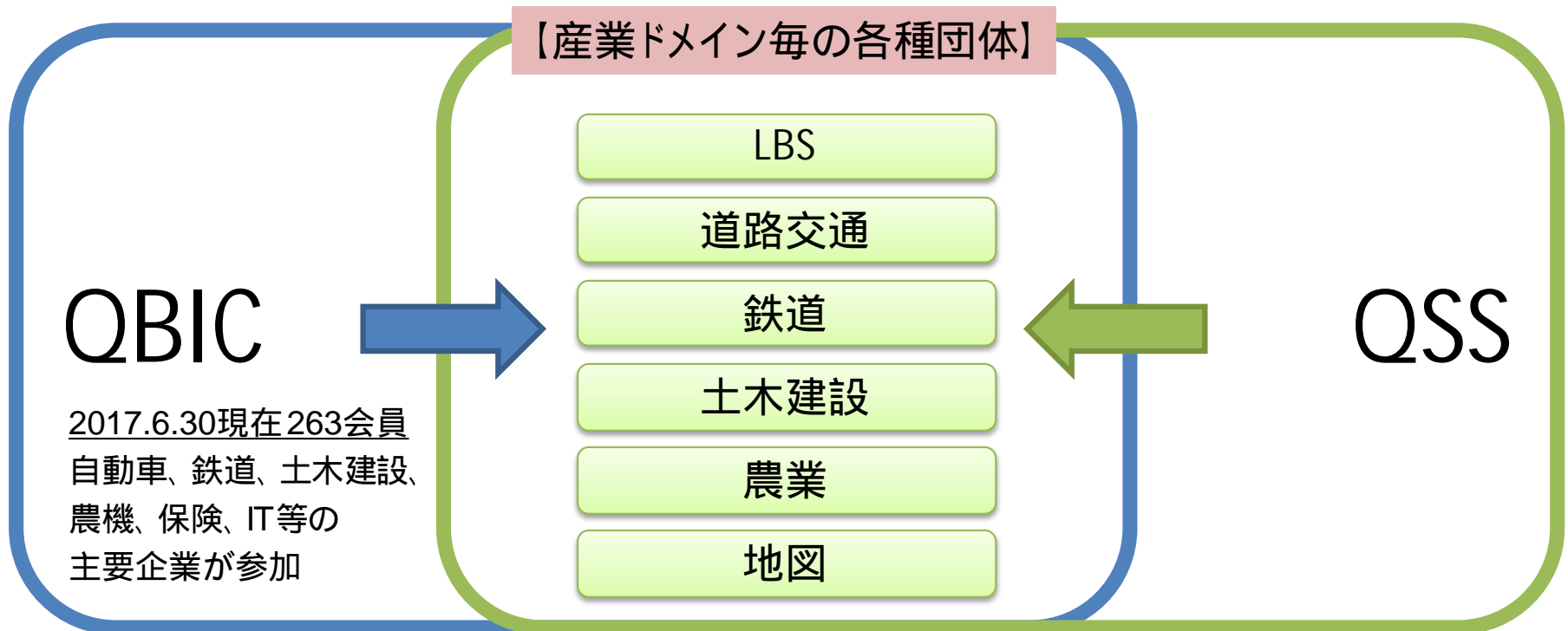
# 準天頂衛星システムの 利用拡大に向けた 取り組み状況について

平成 2 9 年 9 月  
内閣府宇宙開発戦略推進事務局

# 準天頂衛星システムの利活用

## 産業界での取り組み状況

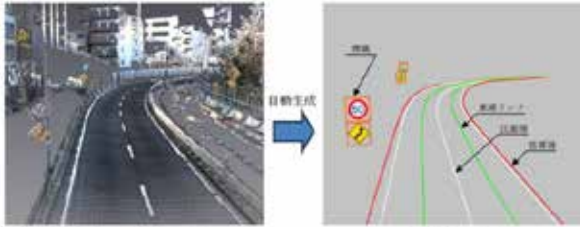
- 準天頂衛星の利活用を促進するため、高精度衛星測位サービス利用促進協議会（QBIC; QZSS Business Innovation Council）と準天頂衛星システムサービス株式会社（QSS; Quasi-Zenith Satellite System Services）が共に手を取り合って相乗効果を最大限発揮させる目的で、主要6分野を設定し、活動中。
- 農林水産省、国土交通省等関係省庁とも連携して推進。



# 宇宙政策委員会 中間取りまとめ(抜粋) (平成29年6月15日)

## 道路・交通分野

平成29年度に、通信手段が途絶した環境下であっても、災害・危機管理情報を享受できるよう、カーナビ等を活用した検討を行い、平成30年度以降、自動走行分野においても、cm級信号とジャイロ等をカップリングさせた受信機の開発・量産の進捗を受け、社会実装の具体化を支援する。



(走りながら位置情報を高精度に収集し、3次元地図を効率的に作成)

## 土木・建設分野

平成29年度に、建機への実適用に向けて、振動・衝撃等の技術評価を実施するため、ブルドーザやバックホウを活用した実証を行い、平成30年度以降、小型・低価格な受信機の普及を受けて、i-Constructionへの活用など、社会実装の具体化を支援する。



(油圧シャベル先端部にアンテナ設置)

## 鉄道分野

平成29年度に、「鉄道分野におけるGNSS 利活用ガイドライン」(平成29年3月鉄道分野におけるGNSS 利活用ガイドライン検討委員会決定)を基にした4機体制の実証を行い、平成30年度以降、小型・低価格な受信機の普及を受けて、本ガイドラインとの連携を深めながら、社会実装の具体化を支援する。



ATS(地上子)



## 農業分野

地理空間情報を活用した、平成30年までの農業機械の有人監視下での無人システムの市販化、平成32年までの遠隔監視による無人自動走行システムの実現等に向けて、研究開発や現場での実証を推進するなど、社会実装に向けた取組を推進する。

